

目 次

はしがき

1章	フクシマ後の社会と法	塩谷弘康.....	1
1	3・11が問いかけたもの 20世紀型社会の終焉.....		1
2	近代日本のあゆみ.....		2
3	3・11をもたらした構造的要因.....		5
4	変わらないこの国で.....		8
5	地域（ローカル）に根ざした循環共生社会へ.....		10
6	本書が目指したものの.....		14
	†Person 1 マックス・ヴェーバー（1864～1920年）...大橋憲広.....		18
2章	紛争と法	鈴木龍也.....	20
1	事例から考える 敷金の返還紛争.....		20
	1 事例 (20) 2 解説 (22)		
2	紛争, 紛争処理と法.....		24
	1 紛争とその社会的な文脈 (25) 2 法や裁判と紛争 (27)		
	3 紛争の過程と第三者の関与 (28)		
3	紛争処理手続としての裁判とADR.....		31
	1 裁判 (31) 2 ADR (裁判外紛争処理) (33)		
4	紛争や裁判から見える法と社会.....		35
	1 川島「法意識」論における法・裁判と社会 (36) 2 和田 仁孝「交渉型裁判モデル」論における法・裁判と社会 (37)		
5	紛争がつなぐ法と社会.....		40
	★ TOPIC 断想：法意識考.....前川佳夫 = 林研三.....		43
3章	現代社会の弁護士	大橋憲広.....	47
1	プロフェッションとしての弁護士.....		47

1 職業の特質 (47)	2 法曹養成制度 (49)	3 自治と懲戒制度 (51)	4 弁護士の内在モメント——公益性・当事者性・価値合理性・事業者性 (55)	5 弁護士へのアクセス (57)	
2	事業者としての弁護士				61
	1 弁護士の報酬 (61)	2 弁護士の経済 (63)	3 法律事務所 (64)	4 弁護士人口 (66)	
3	弁護士をめぐる新たな動き プロフェッションのゆらぎ				69
	1 大規模法律事務所 (69)	2 組織内弁護士 (71)	3 外国法事務弁護士・外国法共同事業 (75)	4 弁護士と隣接法律専門職 (79)	
	★ TOPIC 東日本大震災と弁護士				大橋憲広 83

4章 司法制度改革と司法のゆくえ 塩谷弘康 86

はじめに	司法制度改革はいま	86
1	司法制度改革10年の光と影	87
	1 原発事故と司法の責任 (87)	2 司法制度改革の背景と経緯 (89)
	3 司法制度改革の概要 (91)	4 成果と課題——裁判員制度を例に (93)
2	原発と司法	103
	1 原発訴訟とは (103)	2 もんじゅ訴訟 (104)
	3 原告はなぜ勝てないか (106)	
3	わが国の司法の根本問題	109
	1 わが国の司法の課題 (109)	2 司法制度改革と司法官僚制の克服 (115)
おわりに	市民のための司法を実現するために	117

†Person 2 川島武宜 (1909~1992年) 林研三 120

5章 立法学と法社会学 奥山恭子 123

1	なぜ立法学を問題にするか	123
	1 「立法学」は法社会学のテーマか (123)	2 法政策と立法学の関係性 (124)
2	立法はどんな要因でなされるか	125
	1 社会事情の変動 (125)	2 価値観の変移 (126)

3	立法の意義	127
	1 法解釈は立法学の代替となり得るか (127)	
	2 立法理念と現実の齟齬——理念倒れ・脱法的抜け道の存在 (128)	
4	原子力災害と立法	129
	1 原発事故の特異性 (129)	
	2 原発災害の立法的措置による復興救済 (129)	
	†Person 3 戒能通孝 (1908~1975年)	林研三 132
6	フィールドワーク論	林研三 135
	はじめに 調査とは何か?	135
1	フィールドワークの実践例	139
	1 私の調査経験 (139)	
	2 フィールドワークの「難しさ」 (143)	
2	法社会学におけるフィールドワーク論	146
	1 川島武宜・渡辺洋三・六本佳平 (146)	
	2 近年のフィールドワーク論 (149)	
3	フィールドワークと「実感」	153
	1 「自然のもの」と解釈学的方法 (153)	
	2 「実感」と「全的認識」 (157)	
	おわりに フィールドワーカーの「つぶやき」	161
	†Person 4 オイゲン・エールリッヒ (1862~1922年)	林研三 165
7	フクシマを生きる	岩崎由美子 167
	はじめに 原発災害は終わらない	167
1	放射性被ばくの基準をどう考えるか	171
	1 基準値はどのように作られるのか——学校再開問題から (171)	
	2 「年20ミリ帰還案」はどのようにして決まったのか (175)	
	3 チェルノブイリの教訓をどう生かすのか (177)	
2	原発事故と「新しい権利」「原発事故子ども・被災者支援法」の成立と課題	179
	1 市民団体と法律家との協働 (179)	
	2 「被ばくを避ける権利」「避難する権利」 (179)	
	3 「予防原則」の導入 (181)	
	4 原発事故子ども・被災者支援法の課題 (182)	
3	被災当事者による基準づくり ローカルなつながりを再建する試みから	183

- 1 市民自らが測定することの意味 (183) 2 農業者と消費者
のつながりを再建するためのローカル・ルール (185)

おわりに 191

- 1 「怯えの時代」に生きる (191) 2 立ち上がる人びと (192)
3 「地を這う視点」からの学び (196)

†Person 5 末弘巖太郎 (1888~1951年) 岩崎由美子 200

索引